



兵法書 ① (太公望の六韜と三略)

2月①のごあいさつ

山内公認会計士事務所

2023年2月1日(水)

周の文王が狩りに出ようとして占ったところ、「**「獲物」は龍にあらず、虎にあらず、霸王の輔弼の臣であろう**」と出た。狩りに出かけると、果たして渭水の北岸で一人の釣人に出会った。「先君太公の頃から、間もなく聖人が現れ、周を隆盛に導くであろう、という言い伝えがありました。あなたのおいでを父は待ち望んでいました」。

これが、太公望呂尚であった。

そして、車に同乗して帰ると、彼を軍師に任じ、その後周は天下を取った。人材を得ることの大切さ、偶然の持つ重さを感じさせるエピソードであるが、**偶然性を生かすことは、成功のために欠かせぬ条件である。**

文王が「釣りを楽しんでおられますな」と言葉をかけると、太公望は答えた。「**君子の楽しみは理想の実現にあり、小人の楽しみは目先の仕事を成し遂げることにある。私の釣りは君子の楽しみに近いと言えましょう**」、「**釣りには三つの秘訣があり、これは人材を得る方法と通じます**」、「**待遇を良くして人材を招くのは、餌で魚を釣るのと同じです。小さな餌がはっきり見えれば小魚が食いつきます。中細の糸で、餌の香りが良ければ中くらいの魚が食いつきます。魚は餌で、人材は待遇で集めます**」。「**諸侯並みの待遇で天下に人材を求めれば、天下を手に入れることができます**」。

<六韜>は、文韜・武韜・龍韜・虎韜・豹韜・犬韜の六篇で構成されている。有名な「**虎の巻**」はこの中の一篇「**虎韜**」から出ている。「**韜**」とは、深くしまいこんだ秘訣の事であり、政治、戦略、戦術について述べている。

<三略>は、始皇帝の暗殺を目論んだ漢の張良が、(将として漢の劉邦を助け、留侯に封ぜられる)橋のほとりで出会った老人から伝えられた**<太公望の兵法書>**である。

暗殺に失敗して逃亡中の張良は、ある日、橋のほとりで粗末な身なりをした老人に出会った。老人は履物をわざと橋の下に落とし、「**拾ってこい**」と命じた。怒りを抑えて張良が言われた通りにすると「**履かせろ**」と言う。張良が履かせてやったところ老人は「**見どころのある奴だ。五日後の夜明け前、ここに来い**」と言って立ち去った。

五日後の夜明けに老人が現れ、一巻の書を渡し、姿を消した。

見るとそれは、**<太公望の兵法書>**であった。(老人は高名な黄石公であった。)